

資料 2

第 7 回 球磨川水系水防災意識社会再構築会議

水災害に関する新しいトピックスについて

令和 2 年 6 月 15 日

水災害に関する新しいトピックス

- ① 令和元年度の出水の状況 2
- ② 危機管理型水位計・簡易型監視カメラについて 5
- ③ YouTubeによるリアリティーのある河川映像の伝達 7
- ④ 令和2年度の危険箇所及び重要水防箇所 8
- ⑤ 災害リスク情報の提供・支援について 11
- ⑥ 浸水により流出することで被害を及ぼす可能性のある危険物の確認 . . 12
- ⑦ 既存ダムの洪水機能の強化について 14

令和元年度の出水状況(降雨の状況)

○6月29日6時から30日6時の24時間雨量

◇気象台予測 (6月29日5時36分時点)

・熊本県の多いところ **200ミリ**

◇実績雨量

・人吉地点 (気象台) 20.0ミリ

・三角地点 (気象台) **161.0ミリ**

○6月30日6時から1日6時の24時間雨量

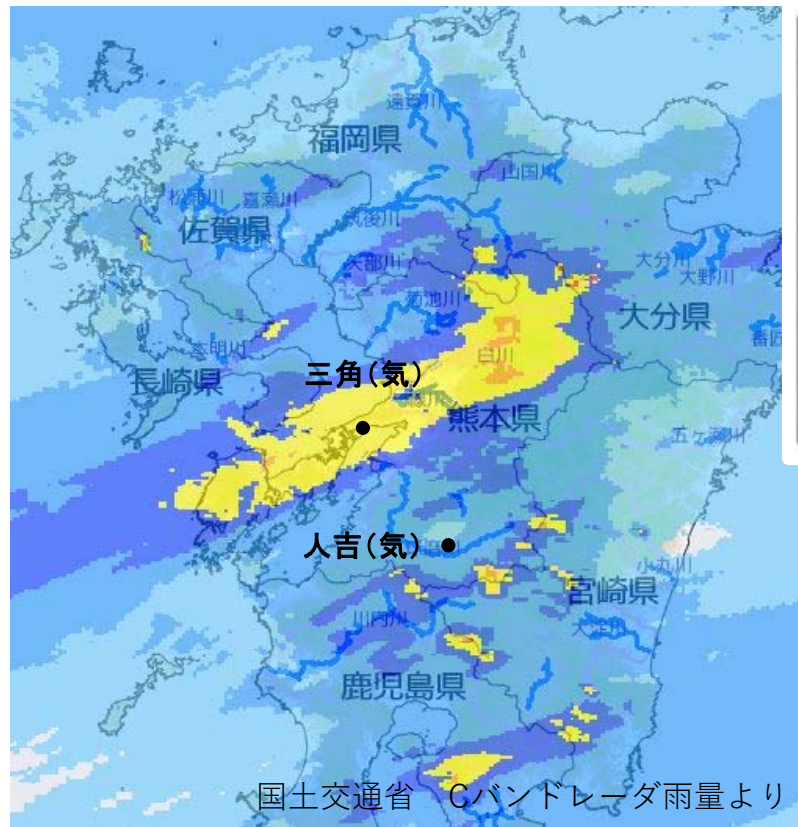
◇気象台予測 (6月29日5時36分時点)

・熊本県の多いところ **300~400ミリ**

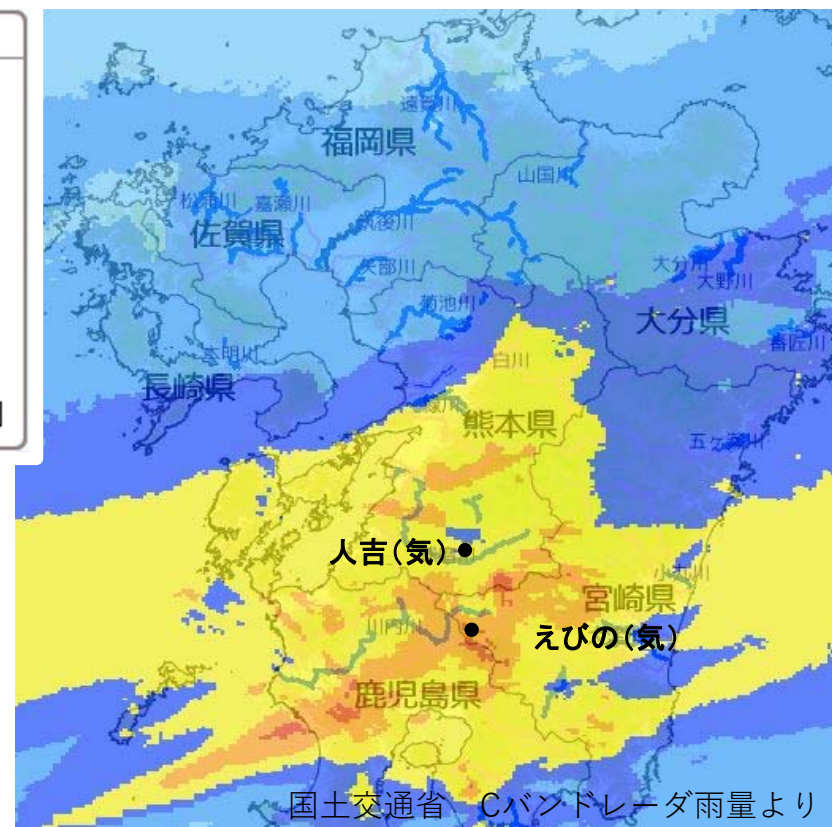
◇実績雨量

・人吉地点 (気象台) 139.0ミリ

・えびの地点 (気象台) **485.0ミリ**



※ 強降雨域は予測より緑川流域等北側に



※ 強降雨域は予測よりえびの市等南側に

令和元年度の出水状況(降雨の状況)

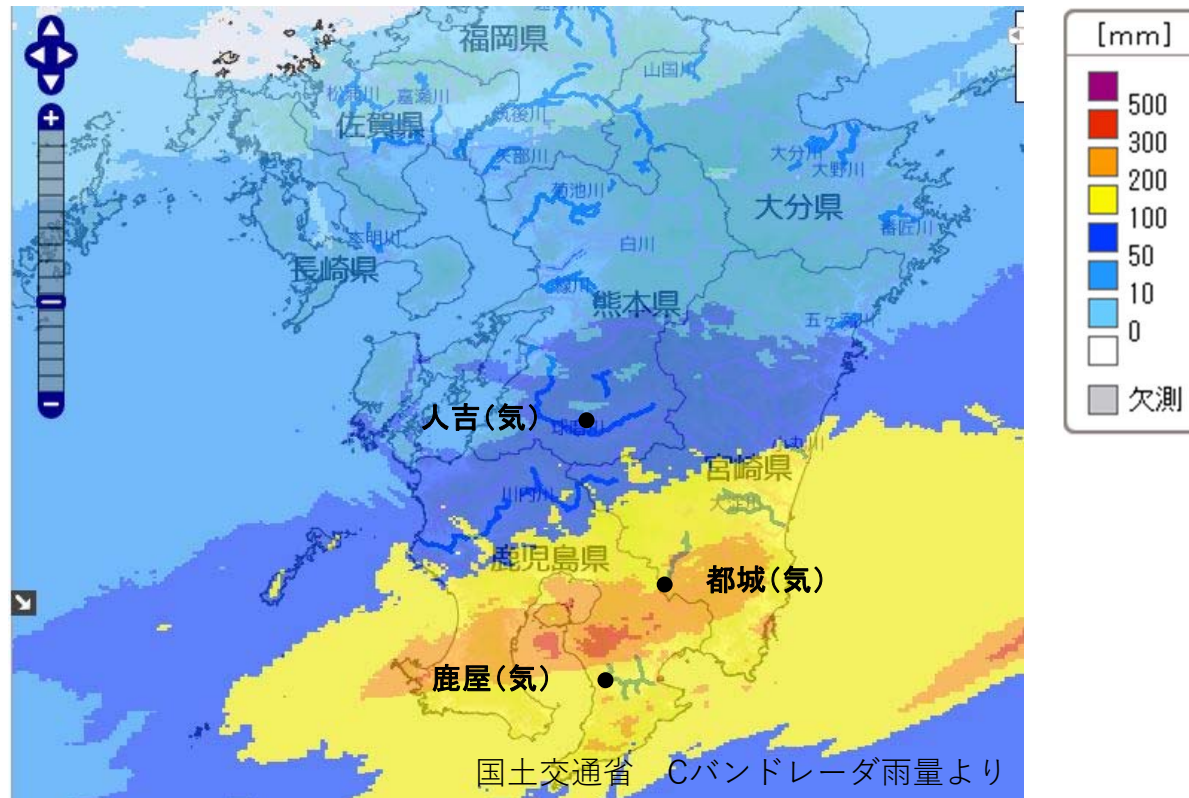
○7月3日12時から7月4日12時の24時間雨量

◇気象台予測 (7月3日11時34分時点)

- ・熊本県の多いところ 300ミリ

◇実績雨量

- ・人吉地点 (気象台) 72.0ミリ
- ・都城地点 (気象台) 210.5ミリ
- ・鹿屋地点 (気象台) 193.0ミリ



※強降雨域は予測より都城市等南側に

令和元年度の出水状況と対応状況

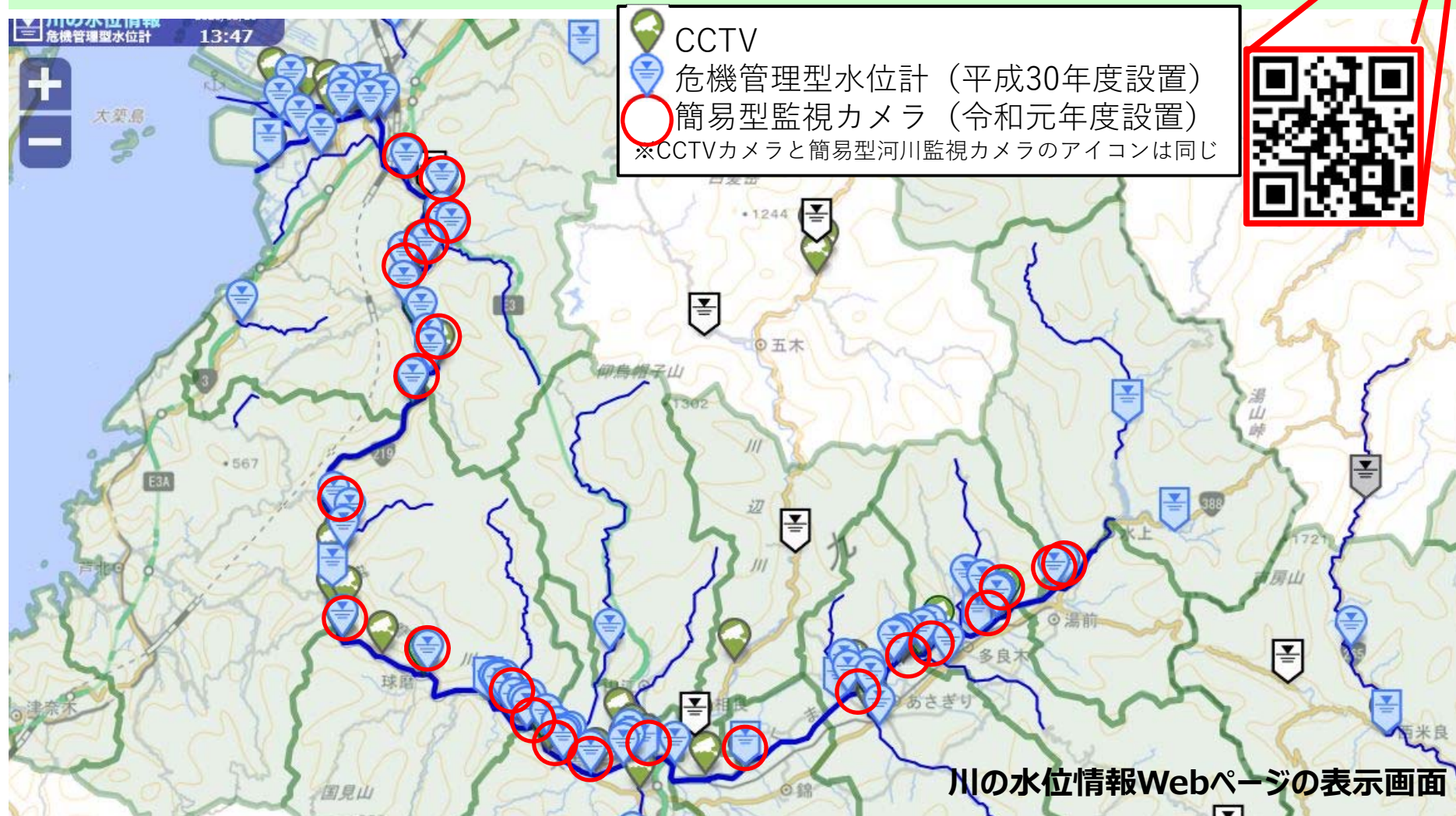
- 八代河川国道事務所が防災体制を発令した回数：9回（平成30年度：13回、平成29年度：24回）
- 氾濫危険水位を超過した出水：0回（平成30年度：1回、平成29年度：0回）
- 氾濫注意水位を超過した出水：1回（平成30年度：1回、平成29年度：0回）
- 事務所長から流域市町村首長へのきめ細やかなホットライン（ショートメール等）を実施

観測所名	水防団 待機水位	氾濫注意 水位	避難判断 水位	氾濫危険 水位	計画 高水位	最高水位 (令和元年)			既往最高水位	
						月日	時刻	水位	年月日	水位
多良木	2.00	3.50	3.60	3.70	4.44	7/13	22:40	2.72	H5.9.3	3.53
一武	3.50	4.30	4.40	4.50	5.68	7/13	23:10	4.03	S57.7.25	4.32
人吉	2.00	3.00	3.20	3.40	4.07	7/13	22:50	2.70	S57.7.25	4.60
渡	5.00	6.00	7.60	8.70	11.33	7/13	23:10	7.04	S57.7.25	11.00
大野	6.50	8.00	10.90	12.20	14.81	7/13	23:40	10.38	S57.7.25	14.73
萩原	2.00	3.50	3.60	3.80	5.36	7/14	1:50	2.51	S57.7.25	4.23

警戒レベル (7/13~14)	1	2	3	4	5
避難情報等	早期注意 情報	洪水注意報 大雨注意報	避難準備・ 高齢者等避難開始	避難勧告 避難指示（緊急）	災害発生情報
洪水に関する情報		●球磨川氾濫注意情報 (渡・大野水位観測所で 氾濫注意水位に到達)			
土砂災害に関する情報				●土砂災害警戒情報 (人吉・錦・球磨・相良・あさぎり・ 芦北・多良木・湯前・山江)	
避難指示（緊急）		なし		なし	
避難勧告		なし		人吉・錦・球磨・相良・あさぎり・ 多良木・湯前	
避難準備・ 高齢者等避難開始		なし		芦北・山江	

危機管理型水位計・簡易型監視カメラの設置状況

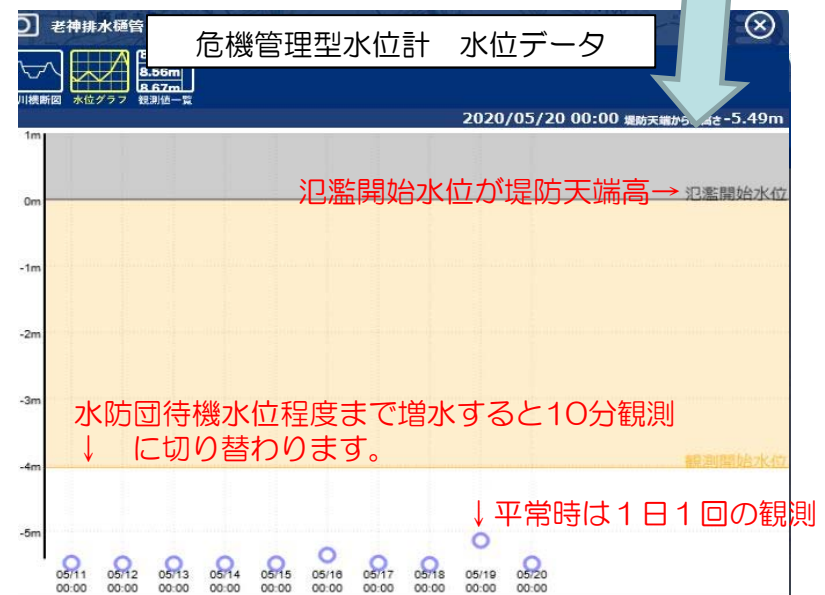
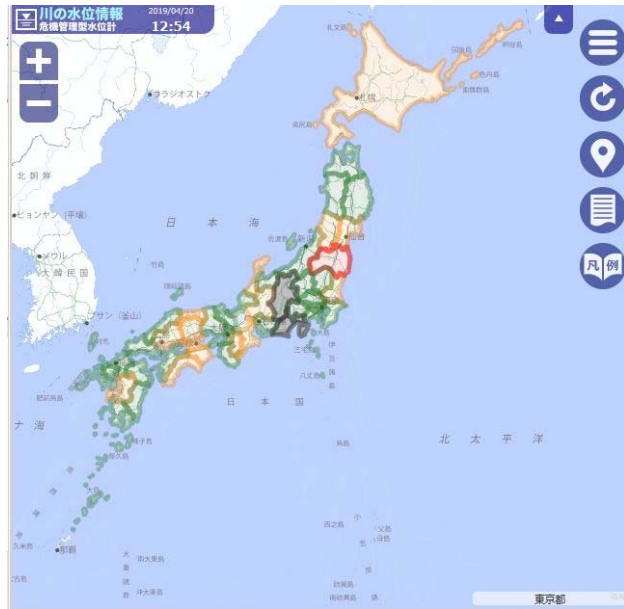
- 既設の水位観測所12箇所、CCTVカメラ36箇所
- 危機管理型水位計・・・53基設置（平成30年度）
- 簡易型監視カメラ・・・23基設置（令和元年度）
- 川の水位情報 <https://k.river.go.jp/> にて公開



危機管理型水位計・簡易型監視カメラ(閲覧方法)

「川の水位情報」閲覧方法 パソコン：<https://k.river.go.jp>

スマートフォンからも
見ることが出来ます



YouTubeによるリアリティーのある河川映像の伝達

- 九州管内の直轄河川20水系において新たにYouTubeによる河川ライブ映像の配信を開始。
- 住民に対して各河川の状態についてリアリティーのある映像を伝達。

九州地方整備局
▶ YouTube
河川カメラ (ライブ動画)

八代河川国道事務所HPの上記バナーより
ご覧いただけます。

URL: <http://www.qsr.mlit.go.jp/yatusiro/>



【試験配信中】九州地方整備局 球磨川映像
【Live動画】

YouTubeによる河川ライブ映像配信

整備局名	対象河川	カメラ数	配信開始日
北海道開発局	13水系14河川 (天塩川水系天塩川他)	14	令和元年 8月16日
近畿地方整備局	9水系15河川 (由良川水系由良川他)	16	令和元年 6月17日
中国地方整備局	2水系4河川 (高梁川水系高梁川他)	4	令和元年 7月31日
四国地方整備局	1水系2河川 (肱川水系)	4	令和元年 10月31日
九州地方整備局	20水系74河川	310	令和2年 6月5日

■ 現在配信中のYouTubeサイト

中国地方整備局

北海道開発局 近畿地方整備局 【高梁川】 【太田川】 四国地方整備局 九州地方整備局

令和2年度の危険箇所について

危険箇所とは

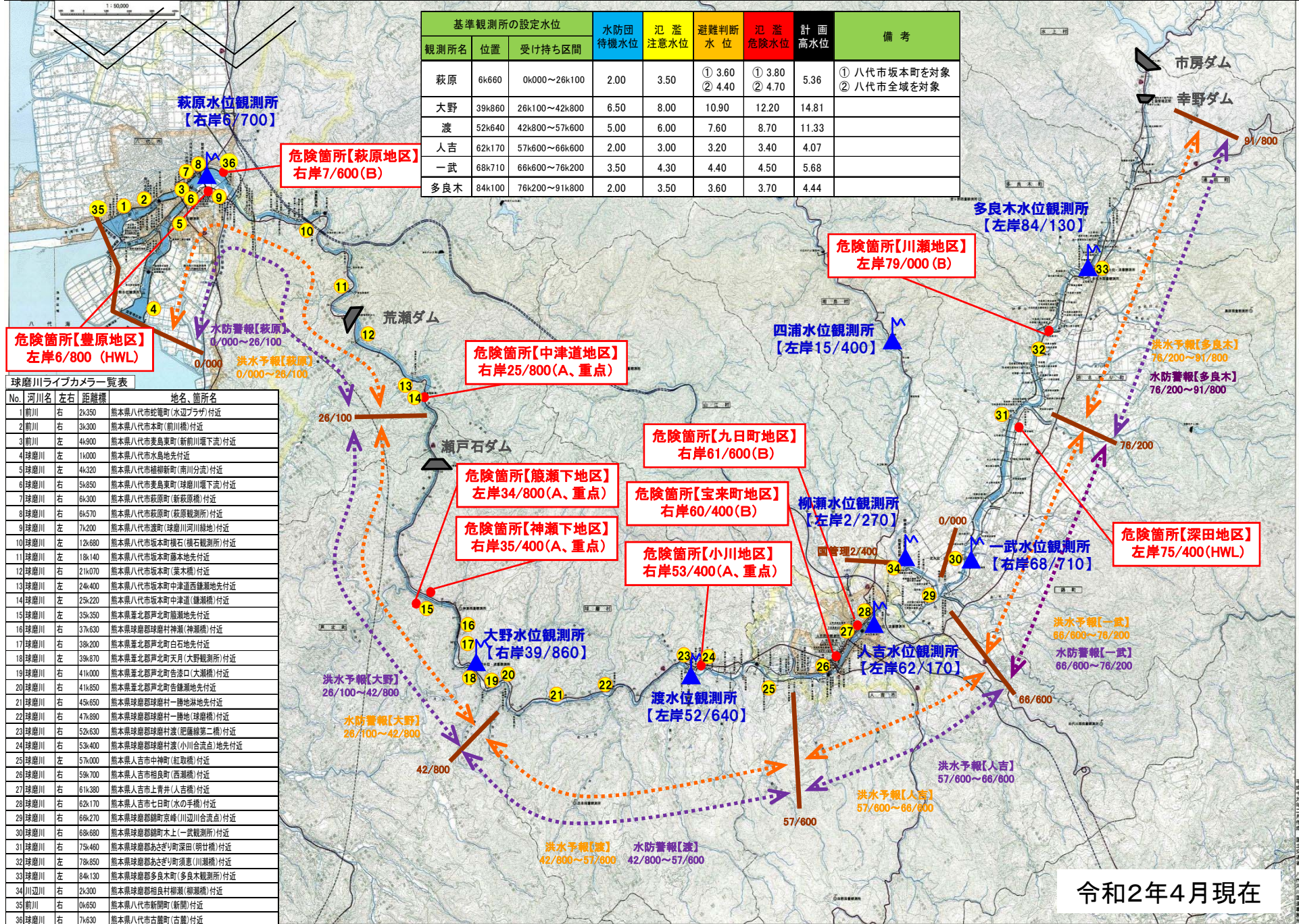
- 洪水予報観測所が受け持つ区域で、各箇所毎に氾濫の起こる恐れのある水位として危険水位(はん濫危険水位)を設定します。
- 箇所毎の危険水位から洪水予報観測所の一連区間で最も低い水位を定めた箇所のことです。

危険箇所付近の状況について、八代河川国道事務所HPより以下のCCTVカメラ映像をご覧くださいことができます。

URL : <http://www.qsr.mlit.go.jp/yatusiro/>

水位観測所	地区名	場所	CCTVカメラ	水位観測所	地区名	場所	CCTVカメラ
萩原①	中津道地区	右岸 25k800	14.鎌瀬橋	渡	小川地区	右岸 53k400	24.小川合流点
萩原②	萩原地区	右岸 7k600	36.古麓	人吉	宝来町地区	右岸 60k400	26.薩摩瀬
	豊原地区	左岸 6k800	9.豊原		九日町地区	右岸 61k600	27.人吉橋
大野	神瀬下地区	右岸 35k400	15.簸瀬	一武	深田地区	左岸 75k400	31.明甘橋
	簸瀬(下)地区	左岸 34k800	15.簸瀬	多良木	川瀬地区	左岸 79k000	32.川瀬橋

球磨川水防警報・洪水予報指定区間と危険箇所・カメラ設置箇所位置図



令和2年4月現在

令和2年度の重要水防箇所について

直轄河川重要水防箇所

重要水防箇所とは

洪水時において、適切な水防活動を実施するため、河川管理者は水防上特に注意を要する箇所をあらかじめ地元水防団に熟知させておく必要があります。国土交通省では水防上重要な箇所を「重要水防箇所」として毎年3月に取りまとめを行い、地元市町村、水防団体に対し河川毎の重要水防箇所として周知しております。

【評定基準】

1) 重要水防箇所

Aランク：水防上最も重要な箇所で、洪水が堤防を超える恐れがある箇所。または、川満杯に洪水が流れた時に堤防が壊れる恐れのある（堤防の大きさが不足している）箇所。

Bランク：水防上重要な箇所で、洪水を安全に流せる堤防の高さに余裕がない箇所。または、堤防の大きさに余裕がない箇所。
要 注 意：新しく堤防を作った箇所で、完成後3年未満の箇所。
または、過去に堤防が壊れた跡、昔、川が流れていた箇所。

2) 重点区間の考え方

- ①無堤並びに弱小堤区間で、背後地に市街部（家屋隣接）を持ち、避難誘導のための巡視が必要な区間。
- ②浸水常習区間で、避難誘導のための巡視が必要な区間。

↓
重要水防箇所Aランクに計上されている箇所で、無堤区間

	重要水防箇所								重点区間	
	A		B		要注意		合計			
H31	47箇所	9.18 km	79箇所	18.03 Km	71箇所	22.52 km	197箇所	49.73 km	22箇所	6.59 km
R2	47箇所	9.18 km	78箇所	17.88 km	71箇所	22.01 km	196箇所	49.07 km	22箇所	6.59 km
増減	0箇所	0km	-1箇所	-0.15 km	0箇所	-0.51 km	-1箇所	-0.66 km	0箇所	0km

重要水防区域の一覧表は、下記の八代河川国道事務所ホームページに掲載しています。

<http://www.qsr.mlit.go.jp/yatusiro/bousai/suibou.html>

- 平成29年に水防法の一部が改正され、**市町村の地域防災計画に位置づけられた要配慮者利用施設については、避難確保計画の作成及び訓練の実施が義務づけ** されました。避難確保計画の策定が低迷している状況もあり、本会議で情報共有を図るとともに、リスク情報の支援等をお願い致します。策定にあたっては、必要に応じて当事務所より情報提供等致します。
- また、上記の取組に加え、新型コロナウイルス感染症への対応として、以下の取組をお願い致します。
 1. **浸水の恐れのある感染症指定医療機関の管理者に対し、想定される浸水範囲や浸水深等の水害リスクについて情報提供** 願います。
 2. **避難確保計画を作成していない感染症指定医療機関に対して、水害発生時に対処ができるようあらかじめ体制を検討しておくよう要請し、あわせて検討に当たって参考になる資料について情報提供** 願います。

【浸水想定区域内にある感染症指定医療機関（想定最大規模降雨による河川が氾濫した場合に浸水）】

- ・独立行政法人 地域医療機能推進機構 人吉医療センター（人吉市老神町） ※浸水深 3～5 m
- ・独立行政法人 地域医療機能推進機構 熊本総合病院（八代市通町） ※浸水深 2～3 m

※参考になる資料

- ・「要配慮者利用施設における避難に関する計画作成の事例集」
（平成31年3月 内閣府（防災担当）・消防庁・厚生労働省・国土交通省・気象庁）
（URL:<http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinankankoku/pdf/hinanjireishu.pdf>）
- ・非常災害対策計画の作成のポイント（P4）
- ・病院の事例：今井整形外科医院（P81～105）
- ・鷺沼産婦人科医院（P106～126）



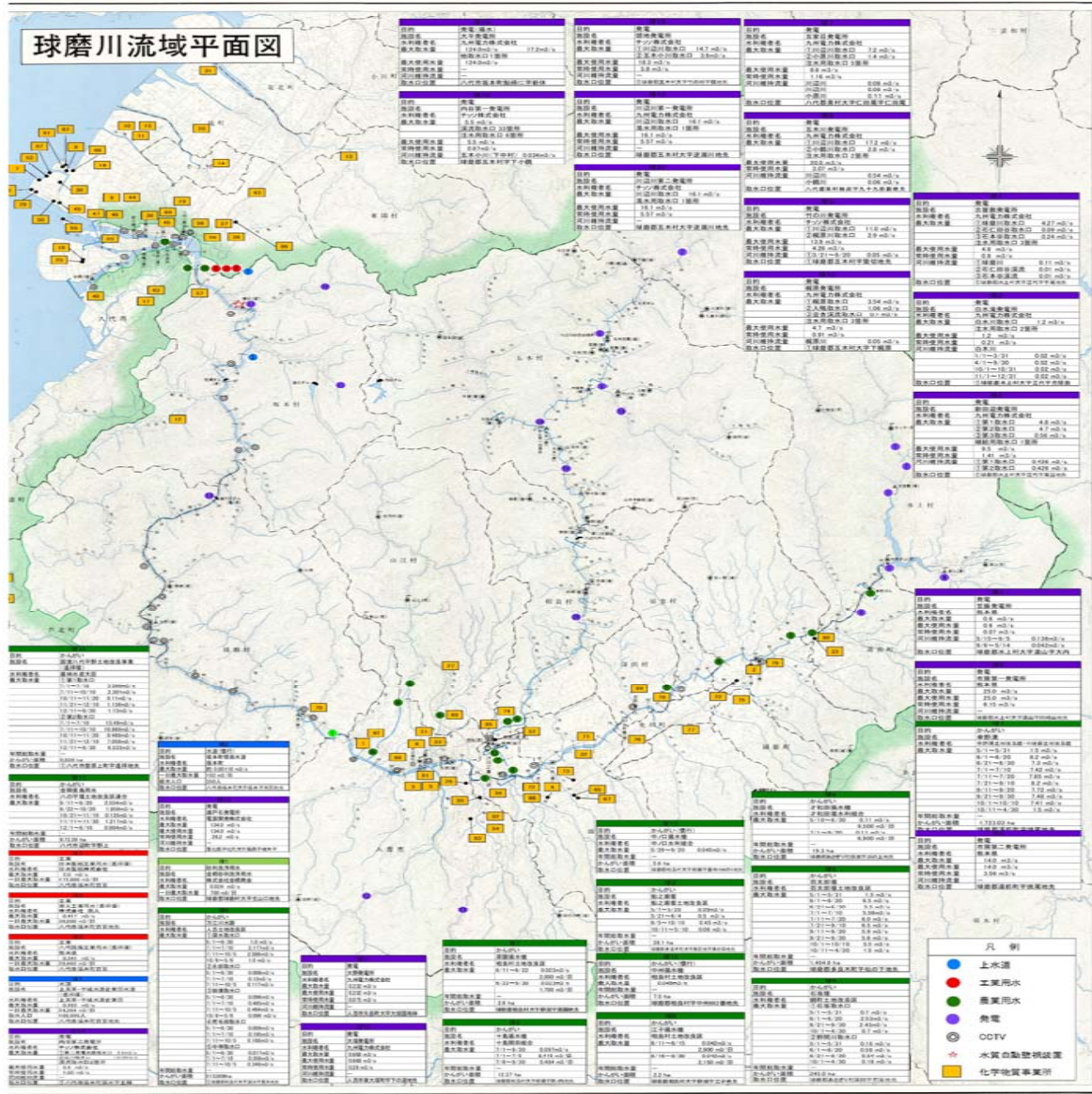
浸水により流出することで被害を及ぼす可能性がある危険物の確認

- 令和元年8月に六角川水系の水害において、浸水被害と水質事故が同時に発生
- 被害が地域に大きな影響を与えたことから、流出によるリスクを把握し、関係機関と協力して流出防止対策について取り組むことが重要
- 流出すると被害を及ぼす可能性がある危険物についての状況調査について、九州地整にて作成したものをベースに本会議にて情報共有を行い、関係市町村の確認を行う。



国土交通省 九州地方整備局
河川部 水災害予報センター説明資料を再掲

球磨川流域内利水施設及び化学物質取扱事業所位置図



参考イメージ(取り扱い注意)

- ▶ 九州地整にて、「**経済産業省製造産業局化学物質管理課**」インターネットを参照して、球磨川流域の浸水による被害を及ぼす可能性のある化学物質取扱施設と取水施設の位置について作業したものです。
- ▶ 添付の図と詳細のデータを各関係市町村に別途送付いたしますのでご確認をいただき事務局へ報告をお願いします。
- ▶ 次回の協議会にて確認いただいた情報を共有して水道事業者等利水者を含む関係機関へ共有をお願いします。



— 記者発表資料 —

令和2年6月1日
九州地方整備局

「既存ダムの洪水調節機能の強化」 ～九州の19水系で治水協定を合意～

- ・このたび、九州の一級水系19水系において、河川管理者やダム管理者、利水者（全106機関）が協力し、「既存ダムの洪水調節機能の強化」対象107ダムの「治水協定」を令和2年5月末までに合意しました。
- ・今後は、引き続き関係機関が連携協力して、ダムごとに「実施要領」等を策定し新たな運用を開始することによって、地域の安全・安心の向上に努めてまいります。
- ・この取り組みは、政府が定めた「既存ダムの洪水調節機能の強化に向けた基本方針（令和元年12月12日既存ダムの洪水調節機能強化に向けた検討会議）」※に基づいています。

※令和元年台風19号等を踏まえ、水害の激甚化、治水対策の緊急性、ダム整備の地理的な制約等を勘案し、緊急時の洪水調節に既存ダムの有効貯水容量を最大限活用できるよう、関係省庁連携の下、速やかに必要な措置を講じることとした、既存ダムの洪水調節機能の強化に向けた基本的な方針。

問い合わせ先

国土交通省 九州地方整備局 TEL：092-471-6331(代表)
河川部 低潮線保全官 島元 尚徳（内線3520）
河川計画課長 山上 直人（内線3611）
河川管理課長 廣松 洋一（内線3751）

【別紙】

○治水協定の主な内容

1. 洪水調節機能強化の基本的な方針
2. 事前放流の実施方針
3. 緊急時の連絡体制の構築
4. 情報共有のあり方
5. 事前放流により深刻な水不足が生じないようにするための措置
6. 洪水調節機能の強化のための施設改良が必要な場合の対応

○九州管内一級水系内の一覧

【別紙】

水系	所在県	既存の洪水調節容量を持つダム		今回の協定対象ダム	
		ダム数	洪水調節容量 ^{※1} (千m ³)	ダム数 【既存の洪水調節容量を持つダムを含む】	洪水調節可能容量 ^{※2} 【既存の洪水調節容量を含まない】 (千m ³)
通賢川	福岡県	4	7,740	10	7,600
山国川	大分県	1	11,200	1	8,035
大分川	大分県	2	21,800	4	4,103
大野川	大分県 熊本県	2	5,810	5	1,206
番匠川	大分県	2	5,660	5	1,275
五ヶ瀬川	大分県 宮崎県	2	11,400	8	9,768
小丸川	宮崎県	2	21,142	9	29,182
大淀川	宮崎県 鹿児島県	5	68,940	14	30,341
肝属川	鹿児島県	0	0	2	3,064
川内川	鹿児島県	1	98,000	4	30,163
球磨川	熊本県	1	18,300	6	29,121
埴川	熊本県	1	24,000	3	14,758
菊池川	熊本県	1	8,000	1	14,643
矢部川	福岡県	1	16,600	2	9,810
筑後川	大分県 福岡県 佐賀県	7	118,870	17	32,982
嘉瀬川	佐賀県	1	17,500	2	32,571
六角川	佐賀県	1	440	6	4,023
本明川	長崎県	0	0	1	240
松浦川	佐賀県	6	10,060	7	8,504
合計		40	465,462	107	271,390

※1: 容量が最大となる期間の容量

※2: 台風等の3日前から低下させて確保できる容量

※本資料は、記者発表資料より引用しています、

下記の国土交通省 九州地方整備局 記者発表にて掲載しています。
http://www.qsr.mlit.go.jp/press_release/r2/20060102.html